



2025年5月7日

日本鉄道労働組合連合会

臼木秀剛（ひでたけ）衆議院議員

## 貨物鉄道の活用に向けた鉄道強靱化・鉄道政策の見直しを主張



国民民主党・無所属クラブ  
臼 木 秀 剛

J R 連 合 「21 世 紀 の 鉄 道 を 考 え る 議 員 フ  
ォ ー ラ ム」 に 所 属 す る 臼 木 秀 剛 衆 議 院 議 員  
は 4 月 9 日、衆議院国土交通委員会において貨物鉄道の活用促進に向けた鉄道強靱化の必要性等について質疑を展開した。

臼木議員は、2月にも貨物鉄道へのモーダルシフトに係る質疑を行っており、改めてその推進に向けてボトルネックとなっている点を確認すると、国土交通省の五十嵐徹人鉄道局長は、「激甚化・頻発化する自然災害を起因とした一時的な輸送障害」を一つの理由に挙げた。

これを受け臼木議員は、J R 貨物が走る線路の災害対策・復旧はJ R 旅客会社が担い手であり、経営判断等の制約も勘案すると、結果として道路よりも鉄道が災害に弱い面があるのではないかと指摘。併せて対策や復旧には多額の費用がかかることも踏まえ、鉄道の国家予算拡充の必要性も指摘した。

## 国交省、貨物鉄道ネットワークを意識したJ R 本州3社への豪雨対策予算を措置

これに対し五十嵐局長は「災害に弱いということはない」旨答弁したが、一方では「今年度からJ R 本州3社の貨物列車走行線区への財政支援を行えるようにし、貨物鉄道ネットワークも含めた豪雨対策を推進していく」旨の答弁を引き出した。



国土交通大臣 中野洋昌  
国土交通大臣 中野洋昌  
国土交通大臣 中野洋昌

中野洋昌国土交通大臣は「6月に国土強靱化実施中期計画を策定する。貨物鉄道ネットワークの強化も含めた国土強靱化の取組をさらに進めていく」と鉄道強靱化の必要性に言及した。

臼木議員は最後に、貨物鉄道の活用には、そもそも「基本的なスキームをはじめとする鉄道政策の抜本的な見直し」が必要である旨指摘の上、「人財・予算等、今後より限られていく資源を最大限生かすべく、各モードの特性を最大限発揮できる交通体系のグランドデザインを国がリーダーシップを持って逆算的に進めていくべき」と強く指摘し、質疑を終えた。